



記録を列挙する一般的な山岳会の会報とは違い、大学山岳部とそのOB会らしく、研究者の山にまつわる研究の一端がかいま見えるのが特徴の会報だ。

冒頭、「氷ノ山の50年」と題して、千本杉ヒュッテ竣工50周年記念イベントについて報告しているが、その中で、神戸大学教授の武田義明さんが「氷ノ山の植生」について紹介するという具合だ。また、創部してから97年の間に亡くなった会員の合同追悼会を行うとともに、シンポジウム「過去の遭難に学ぶ」では、神戸大学の遭難事例を検証しているのが興味深い。

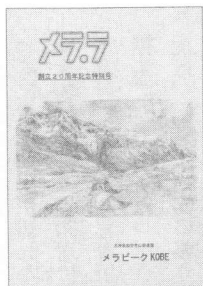
続いて、1958年の日本・チリ合同バタゴニア探検隊を組織し、第一次マナスル登山隊の登攀隊長でもあった、高木正孝氏「「チャカさん」を偲ぶ特集が組まれてい

会報ノート

山岳会の会報をお送りください。
会報ノート欄では
優れた会報に年度賞を贈ります。
会報の巻末には連絡先をお忘れなく。詳細は209ページの
「岳人賞作品募集」をご参照ください。

メラピークKOBÉ

「メラ・ラ」創立20周年記念
A4判 126ページ



ネパールのメラピーク（6476m）登頂を目指して、大蔵省神戸税関の職員を中心とする職域の登山愛好者7人で発足した同会も、2011年に20周年の節目を迎え、記念行事がさまざま企画された。

そのひとつ「記念座談会」では創立会員であるOBと現役会員が集い、会の来し方行く末を語りあっている。カラー写真で綴る「思い

出アルバム」を挟んで、記念山行の報告を収載しているが、「積雪期の県境尾根縦走」では、3月の震災に続き、各地に地震が頻発していることを考慮して、実施を断念している。

続いて、同じく記念山行の「劔岳登攀と派生尾根の縦走」と「西ネパール／カルマ・カン峰（6022m）初登頂」の報告がページを埋める。ほかにも、20年の主要山行記録では「20年の踏跡」「最近の海外登山から（アコンカグア、マナスル、チュルル）」が収録される。後半の「会員交流」のページには、「会員プロフィール」「山に想う伝言板」では会員それぞれの山に対する思いや、思い出が綴られている。ほかに「チョット一服」「お役立ちヒント」など。

会報創刊号から102号をひもといいて、「会報から読み取る人・熱・想をたぐる」には会員の会報に寄せる読後感をアンケート風にまとめてある。

全編、熱意あふれる充実した内容で構成する会報。

〒675-1132 兵庫県小野市育ヶ丘町1480-58 坂崎智明方

る。社会心理学者でもあった高木氏は、ヨーロッパ仕込みのアルピニストであり、著名な登山家でもあった。その業績と教訓が、「破滅的なところ」もあるその人柄を知る会員たちによって、さまざま角度から語られ、偲ばれている。その他、井上達男さんによるカントリーガルボ山群の山座同定や高エネルギー粒子物理学の横山千秋さんの追悼、山本恵昭さんによる富士山放射線調査行や平井一正さんの80歳からの挑戦の報告など内容は濃い。巻末には、2007年〜2010年までの山岳部の活動報告が記録されている。

会への愛着がにじみ出た一冊だ。
〒675-10016 兵庫県加古川市野口町1313-5 山田方

この点を考慮して選り出された

クラブの希望もあり、槍ヶ岳で9